

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 28 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531161

研究課題名(和文) 1920～1940年代の音楽科教育近代化過程に関する研究

研究課題名(英文) A Study on the Modernization Process of Music Education in the 1920s-40s

研究代表者

本多 佐保美 (HONDA, SAHOMI)

千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：90272294

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円、(間接経費) 870,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の成果は、1920～40年代の音楽教育の動向およびその近代化の過程の諸相を当時の各地域の社会状況や音楽文化史の状況をふまえながら明らかにしようとした点にある。特に昭和16年度からの国民学校芸能科音楽の制度化前後の状況に焦点化して、長野県と東京の事例を比較しながら当該時期の音楽科教育の動向とその実践史を総合的にとらえ、最終的に著書として成果を公開するに至った点が本研究の大きな成果である。

研究成果の概要(英文)：This study revealed the following points:
We could execute the case study by comparing that of Nagano with that of Tokyo, focusing on the Geino-ka 0 ngaku (music) of the Kokumin-Gakko (public school, or the German term Volksschule) Era. We could clarify the various aspects of music education based on the each conditions of the areas, or on the music cultural history situation of those days.

研究分野：音楽教育学

科研費の分科・細目：教科教育学

キーワード：音楽教育実践史 教育学

1. 研究開始当初の背景

本研究は、昭和 16 年度から制度化した国民学校における芸能科音楽の研究を出発点としている。

本研究は、これまでに科研費研究「音楽教育史研究における制度・教師・学習者の関係性の探求」(平成 13～15 年度、基盤研究 B1)、「昭和 10 年代の音楽教育実践史に関する総合的研究」(平成 17～19 年度、基盤研究 C2)、「昭和初期小学校音楽科教育の形成過程に関する研究」(平成 20～22 年度、基盤研究 C2)と継続して推進してきているものであり、昭和初期の音楽教育実践に関する総合的歴史研究である。

研究開始当初は、「総合的学習の時間」が新設され、そのあり方が検討されていたことを背景に、国民学校における総合教育への注目が研究の発端となった。

また一方で、歴史研究に社会学的手法を取り入れ、当時を生きた人々へのアンケート調査およびインタビュー調査を実施するアプローチのしかたを試みる過程で、国民学校期の芸能科音楽の制度化前後(昭和 16 年前後)の時代が非常に興味深い時代であったことが浮かび上がってきた。

国民学校期は、それまでの唱歌から芸能科音楽へと制度が転換し、学校音楽における活動領域が大きく拡大した一大転換期であり、この時代を再検討することで、我が国近代の音楽教育実践史に新たな展開が見出せることが期待された。

2. 研究の目的

本研究の目的は、我が国の小学校音楽教育が唱歌教育から脱皮し、音楽科教育としての成立条件を整備していった 1920～40 年代の音楽教育の動向を、音楽科教育近代化の過程ととらえ、その近代化の過程の諸相を当時の各地域の社会状況や音楽文化史的状况をふまえながら明らかにすることである。

具体的には、長野県における事例研究にもとづく考察と、中央(東京)における事例とを比較検討し、当該時期の音楽教育実践史の動向を包括的に把握することを試みる。

当初、次の 3 点に焦点化して研究を進

めることとした。

長野県をフィールドとする事例研究の継続。これまでに行ってきた長野県飯田市および上田市における調査を継続し、各地域の学校がそれぞれの地域性の上に展開する学校音楽の諸状況を把握する。

中央(東京)における制度的動向の把握。東京音楽学校や日本教育音楽協会を中心に、当時の雑誌記事や周辺資料を探索する。

当時の音楽文化史的状况の把握を行う。具体的には、器楽教育を実施するために必要な楽器生産や販売状況の把握、また鑑賞教育を実施するために必要な S P レコード発行状況の把握等である。

3. 研究の方法

研究の目的にあげた各視点について、長野県等への資料調査および継続的な研究会開催を通して資料の分析と検討を行った。

平成 23(2011)年度には、主としての S P レコード発行状況に焦点化して、大阪音楽大学音楽博物館、長野県中野市の中山晋平記念館、岩手県紫波郡の野村胡堂・あらえびす記念館への調査を実施した。

平成 24(2012)年度には、に関して、随時、研究会を開催し、資料の分析・検討と研究成果公開を目指して論文執筆を進めた。また、これまでの長野県をフィールドとする資料調査との比較として、長野県松本市の開智学校と姉妹学校となっている愛媛県西予市の開明学校への資料調査を実施した。

平成 25(2013)年度には、主としてに関して、継続的に研究会の開催と論文執筆を進めるとともに、長野県長野市の信濃教育会、および上田市の上田情報ライブラリーへの資料調査を行った。また、に関して、当該時期の楽器生産や販売状況等の把握のための資料収集を目的として、静岡県浜松市楽器博物館への調査を実施した。

4. 研究成果

研究の目的にあげた各視点に照らし

て、それぞれ以下のような調査研究を継続して行った。

平成 23(2011)年度： に関して、これまでに収集した資料の整理を継続して行い、随時、研究会を開催して、これまでの科研費研究の総まとめとしての成果出版を目指し、内容の分析・検討を継続した。

に関して、制度的動向の一つとして国民学校期の音楽教科書に掲載されている楽曲の分析を行い、成果を紀要論文にまとめた。

に関しては、大阪音大音楽博物館、中山晋平記念館、野村胡堂・あらえびす記念館への調査を実施し、当時のレコードの発行状況や内容、音響像の把握に努めた。また、音響機器の設置により、S Pレコード音源のデジタル化に着手した。

平成 24(2012)年度： に関して、資料整理を継続して行い、成果出版をめざしての研究会開催と論文執筆を進めた。

に関して、中央の制度的動向を把握する一つの方策として、東京音楽学校出身で、当時の学校教育教材作成に精力的に携わった重要な作曲家として、下総皖一および信時潔についての文献・楽譜等資料の収集を進めた。

に関しては、国民学校期鑑賞教材のS Pレコードの購入・収集を進めた。

平成 25(2013)年度： これまでの研究成果の集大成として、著書の刊行をめざし、論文を取りそろえて、研究成果公開のための科学研究費補助金の申請に至った。

また、当時の音響像を提示するために必要な、当時の鑑賞教材・歌唱教材のCD録音・作成を進め、刊行物に付属するCD原盤の完成をめざした。

成果刊行物の目次は、以下のとおりである。

序 本研究の視角
研究の方法
調査地・調査対象校概要
国民学校芸能科音楽の概要

第一章 設備・楽器・備品
第一節 音楽室の光景
第一項 高遠国民学校
第二項 誠之国民学校

第三項 上田市の国民学校
第四項 楽器・子ども・教師
第二節 「モノ」と教育費から見る芸能科音楽の成立過程

第二章 歌唱
第一節 高遠国民学校と誠之国民学校の歌唱指導
第二節 子どもたちが歌った歌 社会の中の子ども、子どもの中の社会

第三章 器楽
第一節 東京と長野における器楽活動の様相 昭和初期から国民学校期にかけて
第二節 国民学校におけるブラスバンド及びラッパ鼓隊の活動

第四章 鑑賞
第一節 国民学校芸能科音楽における鑑賞
第二節 音楽室の設備・備品からみた鑑賞
第三節 昭和一〇年代の小学校におけるレコード使用の諸相 座光寺小学校所蔵のレコード付録に着目して
第四節 国民学校における聴音練習

第五章 行事・儀式
第一節 国民学校の音楽会
第二節 国民学校の運動会における音・音楽
第三節 記憶からたどる儀式の中の音楽とその機能

付属CD収録曲リスト：

1. ガクカウ
2. 機械
3. 軍旗
4. 村の鍛冶屋
5. 野菊
6. 花火
7. ウサギ
8. 田道間守
9. 白衣のつとめ
10. 無言のがいせん
11. 少年戦車兵
12. 勅語奉答
13. 式日唱歌(明治節)
14. 国の鎮め
15. 山の子供
16. 君が代行進曲
17. ひらいたひらいた
18. みたみわれ
19. 三勇士
20. 手まり歌
21. きたへる足

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)
本多佐保美

「国民学校期教科書教材の音楽的特質を探る リズム面からの分析を中心に」

『千葉大学教育学部研究紀要』第 60 卷、
pp.39-46、2012 年、査読無

本多佐保美

「書評 塚原康子著 明治国家と雅楽
伝統の近代化/国楽の創成」
『音楽教育学』第 42 巻第 1 号、
pp.40-41、2012 年、査読無

6 . 研究組織

(1)研究代表者

本多 佐保美 (HONDA SAHOMI)
千葉大学・教育学部・教授

研究者番号：90272294